

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：34506
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20402013
 研究課題名（和文） アジアの遺伝資源マネジメント—NIH（米国国立衛生研究所）モデルからの示唆—
 研究課題名（英文） Genetic Resource Management in Asia : Implication from National Institutes of Health (NIH)
 研究代表者 SHRESTHA Manoj L (SHRESTHA Manoj L)
 研究者番号：90248097

研究分野：社会科学 A

科研費の分科・細目：新領域法学

キーワード：遺伝資源、アジア、利益配分、知的財産権、技術移転、米国国立衛生研究所 (NIH)、
 生物多様性条約、生物探査(bio-prospecting)

1. 研究計画の概要

本研究は、近年、日系企業・研究機関、日本の大学にあって、資源提供元として最も関心が高まっていると考えられるアジア 8 カ国（インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、中国、ネパール、いずれの国も日本の（独）製品評価技術基盤機構（N I T E）又は（財）バイオインダストリー協会との間に遺伝資源提供に関わる MOU(包括的覚書)等が締結済み又は締結予定）に焦点を与え、それらの地域における遺伝資源のABS関連処理（アクセス・利益配分、知的財産、技術移転関連の処理）メカニズムの現状と課題を、米国 NIH（米国国立衛生研究所）の当該地域におけるABS関連処理実績のフォローアップとともに、分析するものである。

2. 研究の進捗状況

アジア 8 カ国のうち、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマー、中国の 5 カ国については、日本の（独）製品評価技術基盤機構（N I T E）又は（財）バイオインダストリー協会との連携、共同研究の実態に関わる現地調査を行い、ネパールについてはN I T Eや

（財）バイオインダストリー協会との MOU は現時点（2011年5月1日現在）では未締結であるが、日本の国立大学との MOU は締結されたため、その MOU に基づき進む共同研究の現状と課題につき、現地にて聞き取りを行い、各地域における遺伝資源マネジメント(ABS処理メカニズム)の現状と課題を、米国 NIH（米国国立衛生研究所）の当該地域におけるABS処理実績(利益配分、知的財産、技術移転問題処理のあり方)フォローアップとともに、分析しているところである。NIH の実績に比して、日本の当該関係機関のアジアでの実績(日本モデル)はまだまだ乏しいことも否めないため、NIH モデルにおける問題が、日本モデルにおいては、さほど争点になっていないこと、現地関係者が総じて日本モデルに対しては、評価し(期待し)、友好的、好意的である点は、世界規模で、評価について多用な見解がある NIH モデルと日本モデルの異なるところであると考えるが、2010年10月の生物多様性条約名古屋議定書締結をも契機として、今後一層諸国の遺伝資源活用にも積極的になるであろう日本企業や日本の研究機関においては、NIH モデルのフォローアップから浮き彫りにされる問題点の検討(例えば、利益配分の受けての特定

方法、利益配分の内容等)は、新たな日本モデルの再構築という意味でも大いに参考にすべきものとなると考え、NIH モデルから、日本モデルへの示唆を探るべく、調査結果を基に検討を深めているところである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

例年、アジア8カ国のうちの2カ国毎の現地調査を行い、各国毎に必要な調査項目について、調査、分析を行うことができた。

4. 今後の研究の推進方策

本年度(最終年度)は、残る2カ国、すなわち、モンゴル及びマレーシアにおいて、現地調査を行うとともに、NIH 関係者を招いての研究会を日本においても実施し、その研究成果を踏まえて、アジア8カ国における遺伝資源マネジメントの実情、特にABS関連処理(アクセス・利益配分、知的財産、技術移転関連の処理)メカニズムの現状と課題を、NIH モデルから日本モデルへの提言という形で、総括し、その成果を論文にまとめる予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13件)

・SHRESTHA Manoj L, 「インドにおける「イノベーション」—知的財産活用の観点から—」甲南大学経営学会編『経営学の伝統と革新』、千倉書房 2010年37-56頁 査読無

・Robert Kneller, “Importance of new companies (biotechs) for drug discovery and development: the origins of 252 new drugs approved by the FDA 1998-2007” *Nature Reviews Drug Discovery* 9 (November) 2010, 867-882 査読有

・Robert Kneller ‘The changing governance of Japanese public science’ In R. Whitley, J. Glaser & L. Engvall (eds), *Reconfiguring Knowledge Production: Changing Authority Relations in the Sciences and Their Consequences for Intellectual*

Innovation, Oxford: Oxford U. Press. 2010, 110-145. 査読無

・山名美加「中国、韓国、インドにおける近年の知財事情—進むわが国との連携と新しい課題—」査読無 独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) 産官学連携ジャーナル Vol6, No.7 2010年10-13 査読無

・山名美加「米国国立衛生研究所 (NIH) モデルにみる生物資源・伝統的知識への「アクセス・利益配分」 (ABS)」関西大学法学論集 第59巻3・4合併号2009年527-555 査読無

[学会発表] (計 5件)

・SHRESTHA Manoj L, 「CSIR (Council of Scientific and Industrial Research) における研究開発マネジメント」日本知財学会、第2回TEPIA知的財産学術国際交流会議 2010年2月24日、於TEPIAホール

・SHRESTHA Manoj L 「ネパールにおける地球温暖化防止活動」日本環境教育学会関西支部第17回研究大会 2008年12月21日 於甲南大学

[図書] (計 0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]